

平成 30 年度 F D / S D 活動報告書



2019 年 5 月

学園教育充実研究会

目 次

1. 全授業公開_____ 4p

2. 授業公開（対象指定型）_____ 5p

〔大学〕公開授業および授業検討会 「家庭電気・機械」（大学 人間生活学科 石原正道准教授）

〔短大〕公開授業および授業検討会 「グラフィックデザインⅢ」（短大 生活芸術科 齊藤弘久教授）

3. 学園教育充実研究会〔夏の大会〕_____ 10p

4. 各種研修会・ワークショップ_____ 13p

第 1 回大学食物栄養学科セミナー：「障害児の自己肯定感を高める学級・授業づくり」 14p

学園教育充実研究会 SD 部門：「平成 30 年度 事務局新任研修会」（15p）

学園教育充実研究会 FD 部門：

教職員の質的向上に関する取り組み

「授業評価アンケート結果分析について学生代表との参画における報告」 16p

教務委員会・学園教育充実研究会 FD 部門 共催：FD 研修会「科学研究費の書き方について」 17p

学園教育充実研究会 FD 部門：FD 研修会「国家試験対策に向けて～戦略の立て方～」 18p

第 2 回大学食物栄養学科セミナー：「中国の経済と食生活の変化」 19p

生涯学習委員会・教養キャリア教育委員会 共催：特別講座「自分らしく社会に貢献する学習法」 20p

入学事務部・広報室：

外部講師による学生募集関連研修会「18 年卒募集プロセス分析結果」 21p

大学図書館：「平成 30 年度大学図書館 学内研修会」 22p

障がい学生支援委員会：「障がい学習支援体制整備に向けた具体的方策について」 23p

教養・キャリア教育委員会、学生生活部、IT 管理運営委員会 共催：「平成 30 年度学生指導研修会」 24p

第 3 回大学食物栄養学科セミナー：「在宅医療は地域に貢献できるか」 25p

5. 事務局職員 外部研修参加記録_____ 26p

事務局長 / 総務部 / 経理部 / 管財部 / 入学事務部 / 教務部 / 学生生活部 /

就職部 / 図書館 / 高校事務室 / 保健室 / 幼稚園事務室 / 家庭寮 /

学園教育充実研究会（SD 部門）

ひ と こ と

大学副学長 影 山 彌

本年度、FD・SD 活動が、学園教育充実研究会による計画を基に、学園の教職員の参加を得て確実に遂行されたことに敬意を表します。

今年度の主要な課題は、(1) 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業の改善、(2) 授業公開、(3) 研修会への参加、(4) 夏の大会の開催、の4つという多岐にわたるものでしたが、そのねらいは、学園教育の向上に向けて、教員の授業力の向上、そして教員と事務職員間の相互理解と協働の深化にあり、そしてその目的は総じて達成されたという実感を共有できたと考えます。そして学園教育充実研究会の活動の中心に今もなお、昭和 44 年発足の当研究会の主題であり続けた「授業の充実」が受け継がれていることに、深い感慨を覚えます。

今後のFD・SD活動のテーマについて、一つの提案があります。それは、学生、生徒の「課題解決能力の育成」です。提案の理由として、初等中等教育における「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の育成」(学校教育法第30条第2項)、学士課程教育における「課題解決能力の育成」(平成20年中教審答申)、大学の役割の一つとして「人材育成や課題解決で地域に貢献」を規定した国立大学改革(2015年)などがあります。周知のように、本学園はすでに「地域に貢献する専門的人材の育成」を教育の基本方針とし、6つの包括連携協定を締結し、多領域にわたる地域貢献活動を行っています。今日の教育界を大局的に見ると、本学園の将来は、地域貢献を推進し、それを支える学生、生徒一人ひとりの「信頼される課題解決能力」を育成することにかかっているように思うのです。

本年度のFD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫

本年度は、円滑にFD活動を運営するため、「授業公開」「授業評価アンケート」「夏の大会」「研修会」の各担当者を決めた。各担当者が役割分担に則って、仕事を確実に遂行できた。

今年度は(1)授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善、(2)授業公開について、(3)研修会の参加について、(4)夏の大会について、の4点を主要な課題とした。

(1) 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善に関しては、FD会議において授業評価アンケートの分析結果を審議し、教授会で「学科内で学科独自の予習復習時間を設定する」ことを提案した。また授業評価アンケートについて、学生の代表から授業改善へ向けての意見を聴取し、「教職員等の質的向上に関する取り組み～授業評価アンケート結果分析について学生代表との参画における報告～」と題したFD研修会を開催した。(2)の授業公開であるが、今年度は前年度の参観者減を踏まえ、前期に全授業公開、後期に授業公開と検討会を実施した。各委員が学科内で参観の呼びかけを行ったが、全授業公開においては前年度比6.7%減となり参加者増には至らなかった。(3)の研修会については、今年度は12回の研修会を開催したが、「昨年度の研修会参加状況を踏まえ、研修会参加への方策を検討する」というPDCAの計画が、未実施となってしまったことが反省点である。(4)の夏の大会については、計画通り5月下旬のFD・SD合同会議で実施内容を決定した。夏の大会のアンケートにおいて、91%(午前の部:96%、午後の部:86%)の肯定的評価(有益、やや有益を併せた割合)を獲得した。

「学園教育充実研究会(夏の大会)」のテーマは、「これからの教職協働を考える ～魅力ある学園を目指して～」とした。本年度は、教職員が協力して魅力ある学園を目指すことを目的とし、FD部門とSD部門の協働による開催となった。

前半は学園内における教職協働および地域連携等の事例発表を実施し、学園内において関心はあるが日頃なかなか聞くことのできない内容で有意義なものであった。後半は「今より100人受験生を増やすために何ができるか、何をすべきか？」について「教育」「学生支援」「学生募集」「施設」「地域貢献」「行事」の六つの領域に分かれ、ワークショップを行いその成果を発表した。教職員が職位・職階を横断した十八のグループに分かれ意見交換を行い、多様な意見に触れることで現状の課題と今後の方策を再発見する機会となった。

1. 全授業公開

本学では教員の授業実践力の向上を目的に、学園教育充実研究会発足以来、授業公開を行っている。全員が授業を公開する全授業公開はこれまで後期に実施していたが、自分の授業との兼ね合い等により授業を参観できない教員もいたため、今年度は前期に実施した。昨年同様に職員の授業への参観も受け入れた。

I. 背景と目的

- (1) 授業力の向上が必要な教員の研修機会を提供する
- (2) 全教員の授業力のさらなる向上
- (3) 「学び合い、教え合う学園へ」の相互扶助の精神によるFD・SD活動の実現

II. 公開方法

■公開時期 前期：6月中旬～下旬の2週間（6/18～29） 一般的には第10回・11回目の授業

■公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② 参観者から事前の連絡が欲しい場合、注意事項がある場合、特別な理由などにより非公開の場合は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の1週間前までに行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を学園教育充実研究会に提出する。

■参観について

- ① 教員、職員ともに期間中の参観を任意とする。
- ② 参観1回につき研修会参加1回分としてカウントする。
※参観の有無（回数）は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2時限連続の授業等においては1時限分のみでも可とする。

III. 参観回数

- ① 教員 大学27回（21人）、短大12回（7人）
- ② 職員 なし

〔授業風景〕



「地域社会と食文化」（地域創成学科1年生）



「情報処理Ⅰ」（地域創成学科1年生）

2. 授業公開（対象指定型）

公開者を限定して授業検討会で授業に対する認識を深めていく対象指定型の授業公開を、今年度は後期に実施した。大学人間生活学科、短大生活芸術科が担当対象学科となった。

〔大学〕

実施概要

- 授業担当者 石原 正道 氏（大学 人間生活学科准教授）
- 科目名 「家庭電気・機械」
 - テーマ 『電気を利用した発光システム』
電球・蛍光灯・LEDの仕組みを学び、製品の特徴を掴むことで、適切な使用ができるよう製品の理解をはかる。
- 開講期 平成30年度 後期
- 公開日時 平成30年12月18日（火） IV時限目（14：30～16：00）
- 使用教室 創学館3階 534 教室
- 対象学生 人間生活学科3年生6名
- 参加者数 授業参観5名（大学4名・短大1名）／授業検討会4名（大学3名・短大1名）

公開授業の概要

1. 公開された授業（本時）のねらい

第13回 電気を利用した発光システム

現代社会において灯りは必須のものである。本時では、光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多いLight Emitting Diode (LED) の仕組みを学び、製品の特徴と製品の仕組みを理解することにより、適切な使用ができるようになることをねらいとしている。

2. 授業内容

(1) 導入（約10分）

前回の授業終了時に受講生の提出した「確認ペーパー」の返却および出席確認を行う。

前回の復習として、電子レンジの基本構造（マグネトロン・インバータ）および加熱原理（誘電加熱）について確認をする。

本時で学ぶ事項（発光システム：電球・蛍光灯・LED）および簡易実験を行うことを伝える。

(2) 展開（約65分）

①電球・蛍光灯・LEDの発光原理と特徴の理解

A) 電球の発光

電球の構造と発光原理の説明を行う。電球の発光では熱の発生があること、および電球の寿命は主にフィラメントの劣化によることを示す。

■電球の構造を理解するため、簡易的な(かつ発光可能な)模型により理解をはかる。

B) 蛍光灯の発光

蛍光灯の構造と発光原理の説明を行う。とりわけ蛍光灯の仕組みについて説明を行い、熱が発生しにくい仕組みとなっていることを示す。

■電球と比較し、蛍光灯は効率がよく、かつ寿命も長いことを明確に示す。

C) Light Emitting Diode (LED) の発光

LEDの発光原理は電球や蛍光灯の発光原理と異なる原理であることの説明を行う。このことから蛍光灯より熱が発生しにくいことを示す。

蛍光灯と比較し、LEDは効率がよく、かつ寿命も長いことを明確に示す。また構造がシンプル

であるため小型化できることも示す。

②簡易実験

授業内容の理解を促進し、かつ授業内容の印象付けを行うため、簡易実験を行う。各回の授業で場所を移して実験することは困難であることから、本回で複数の実験を行う。

- ・圧電素子による放電現象の確認
- ・圧電素子を用いた蛍光灯の点灯
- ・電子レンジを用いた蛍光灯の点灯

これらの簡易実験は、(1)製品で用いられている圧電素子の機能を確認すること、(2)蛍光灯の原理の理解を深めること、(3)電子レンジ内の加熱は電磁波によることを理解すること、を目的としている。

(3) まとめ (約 15 分)

電球・蛍光灯・LED の寿命の比較を行い、どの程度の寿命の差があるのか量的な理解をはかる。また効率に差があることを再確認する。

- 受講生は理解度確認ペーパーに、理解できたこと・理解できなかったこと・感想を記入し提出する。
(全ての項目の記入は求めている。また理解できなかったことは優先的に記入することとしている)

3. 工夫した点 (参観のポイント)

本科目では基本原理から家電製品の仕組みを理解することとしている。本科目は教職課程にかかわる科目である。卒業生が教員として働く期間は長期間となることから、家電製品の理解も長期的な視点が必要である。日常で使用する家電製品は、変化しないようにみえて長期的には大きく変化していく。例えば、電話はアナログ式の電話から携帯電話へと変化した。現在では据え置き型の電話を保持しない家庭も少なくない。テレビもブラウン管テレビから液晶テレビに置き換わった。このように家電製品は長期的にみると、異なる原理によって同一の機能が実現されたり、機能の付与・強化が行われたりしている。したがって長期的な視点では、家電製品の進化に係わらず、基本原理から家電製品の仕組みを理解しておく必要がある。そこで本科目では、基本原理から家電製品の仕組みを理解するための構成を試みている。

受講生の学習経験に着目すると、本科目を受講する学生は、物理学を学んでいない或いは苦手としていると想定しなければならない。このため他科目以上に、受講生が科目内容を理解しているか把握する必要がある。本科目では(リフレクションシートに類する)確認ペーパーを準備し、受講生に「理解できたこと」「理解できなかったこと」「感想」を記載するよう指示している。とりわけ、理解できなかったことがあった場合は必ず記載するよう指示している。特定の受講生が理解できなかったことであれば、確認ペーパーにコメントを記載することにより説明を補い、複数名が理解できなかったことであれば、再度授業内で説明を行うこととしている。このことにより理解不足とならないよう配慮している。

確認ペーパーには予習のために授業でキーとなる単語を記している。また受講生とコミュニケーションをとるためにも確認ペーパーを用いている。確認ペーパーは単位の実質化を図り、学生の授業への参加を促すための道具として利用している。

本科目は講義科目であるが、授業内容を鑑みると講義のみで受講生の学修意欲を維持し、かつ十分に内容の理解をはかることは容易でない。そこで本授業では実物を見せたり簡易実験を行ったりすることで、学修意欲の維持・向上と内容の理解を図っている。とくに簡易実験を行うことで印象付けを行い、学修内容の定着を図るよう試みている。

以上の通り、科目の特性を考慮し授業を実施している。

4. 授業の自評

科目担当者として、主に本授業および本科目の構成および授業方法において検討すべき点を記載する。

公開授業時は講義だけでなく簡易実験も行う授業内容であったため、時間調整の難しい授業であった。場所を移し簡易実験を行う授業構成であったため、まとめの時間を確保するための時間調整をしにくかった。費用や機材の面から実験内容を変更することは難しいため、授業内容の実施順序等の検討を今後も行う必要があると考えている。

授業の印象付けを行うためには実験は有効である。現在は身の周りにある機材を用いた実験を行っているが、安定的に実験を行うには定圧電源などが必要であるため、機材を購入し他の簡易実験を取り入れることも検討したい。

また授業担当者は講義で導入している確認ペーパーに一定の効果があると考えている。確認ペーパーの利用により受講生が何を理解できていないか捉え、再度説明を行うべきかどうか判断することができる。このことにより受講生の授業内容の理解をはかることができる。一方で、確認ペーパーを記載するための時間を十分に確保することはできていない。現在は5分弱の時間を確保しているが、必ずしも十分な時間ではないようである。確認ペーパーは有用であると考えているが、確認ペーパーに記入する時間をどのように確保するかという問題が残されていると考えている。

本科目の内容は家電製品の発展に伴い変化していくべきである。どのような内容を選択し、どのように授業を構成すべきか、今後も検討していきたいと考えている。

5. 公開授業に対する感想

本年度、公開授業を担当し討論会に参加しました。公開授業および討論会の実施において有益であった点と困難さを感じた点がありました。

公開授業の実施において有益であったことは、授業構成を考える機会となったことです。公開授業用に準備をしたわけではなく通常通り授業を実施しましたが、授業構成を考えるきっかけになりました。他方で困難さを感じたことは、受講生が少数であることから公開授業として成立しうるか考えざるを得なかったこと、また簡易実験を行う授業内容であったために、参観者数によっては例年と異なる対応とすることを検討せざるを得なかったことです。結果として通常通り授業を実施できましたが、今後の公開授業において、授業に大幅な変更をせざるを得ない状況が生じないようにする必要があります。

討論会で有益であったことは授業改善のためのヒントが得られたことです。ご提示いただいた「シラバスの受講資格欄に各課程で履修すべき科目であること（教職課程において履修すべき科目であることなど）を記載する」という記述方法は学生に利益があります。各課程において必要な科目であることを記載するという案は学園全体で実施するとよいと思います。また討論会で議論となった資料の電子化については、「資料の電子化をいかにいき、どのように配布するか」ということを考えるきっかけとなりました。現在教員用ウェブサイトが停止していることや他者の著作権に配慮すべきことから、今後どのような方法で学生に電子データを配信すべきか、学園として検討すべきであるように思います。

今回の公開授業および討論会では授業改善のためのヒントをいただけたように思います。受講生にとって授業が有益であるよう、今後も授業内容や授業方法の見直しを行っていきたく思います。

最後になりますが、ご多忙の折、公開授業および討論会にご参加いただいた先生方をはじめ、本公開授業および討論会の実施にあたりご助力いただいた皆様方に感謝いたします。



〔短大〕

実施概要

- 授業担当者 齊藤 弘久 氏 (短大 生活芸術科教授)
- 科目名 「グラフィックデザインⅢ」 / Oテーマ 「CIS Tree」
- 開講期 平成 30 年度 IV 期
- 公開日時 平成 30 年 12 月 10 日 (月) I・II 時限目 (8:50~10:20/10:30~12:00)
- 使用教室 芸術館 2 階 生芸科講義室
- 対象学生 生活芸術科 2 年生 7 名
- 参加者数 授業参観 17 名 (大学 3 名・短大 14 名) / 授業検討会 11 名 (大学 2 名・短大 9 名)

公開授業の概要

1. 公開された授業 (本時) のねらい

第 13 回 CIS Tree

これまで制作したデザインを系統図としてまとめる。という授業であるが、授業目標にある「グラフィックデザインは、人間相互のコミュニケーションを円滑にするという役割において重要な使命を担っている。」ということから、デザインと人との関わりについて、デザインという分野の幅の広さを考えた。

2. 授業内容

①教員自身がデザインに出会うまで

「人間の幸せという大きな目的の意匠について」というテーマでパワーポイント使用して座学を行った。私自身は版画を制作する身でデザインを専門とはしていなかったが、縁あって藝大のデザイン科で学んだ経験を振り返り、版画とグラフィックの想像を超えたデザインの面白さを学生と共感出来ればと今回の時間を使って話を進めた。

②授業概要 1 (講義)

グラフィックとは、印刷の、という意味である。グラフィック・デザイナーと言っても私は製版技術者です、と言っても普通の人には専門的すぎる。印刷屋に的確に指示を与えるプロのことを言う。

グラフィック・デザイナーは図案家と言ったが歴史的意味があった。印刷がまだ発達していなかった頃、手書きでポスターを作ったり看板を描いたりしていた。印刷技術の進歩と共に図案家からグラフィック・デザイナーに変化していった。そして時代はグラフィックつまり「印刷の」だけでは終わらなくなってきた。視覚表現には映画や、テレビ、CG、などもある。ビジュアル・デザインという視覚による表現を主とするデザインという言葉にとりあえず変わった。

今どんなデザイナーがいる? 問題提起デザインは形を作るだけのものではない人間の創造力、構想力をもって生活、産業、環境、に働きかけ、その改善を図る営みで。人間の幸せという大きな目的の元に創造力、構想力を駆使し、私たちの周囲に働きかけデザインの概念 デザインは経済、科学、教育、美術、政治、文学などあらゆる現代社会の中間領域。これらの独立した要素を、人間の幸せという大きな目的のもとに調整していく行為をデザインという。様々な関係を調整する行為を総称して、「デザイン」と呼ぶ。

デザインという概念は人間ひとりひとりが人類誕生以来持ち続けて来たものである。「デザインする」ということ文化的動物である人類が生き延びていくために必要不可欠なものであるなら、人間の基本的な欲求の中でどの位置に属するのか?

美術作家の世界には、面白いヒエラルキーが存在する。彫刻家、油絵家、日本画家、工芸家、デザイナーという順序である。これは、どれだけ、自由に自己表現できるかという順番である。

<図 A>

優越感	彫刻家→油絵画家→日本画家→工芸科→デザイナー
劣等感	彫刻家←油絵画家←日本画家←工芸科←デザイナー

<図 B>

関心度	彫刻家←油絵画家←日本画家←工芸科←デザイン
-----	------------------------

無関心度 彫刻家→油絵画家→日本画家→工芸科→デザイン

最後に「初心」という言葉を学生と一緒に考えた。物事を始めた時のフレッシュさを言うのではない。やっている事の難しさを感じた時、壁にぶつかった時期のことを初心という。物事に慣れてきか、ある時自分の方法論が通じなくなり、どうしても壁を乗り越えられなくて努力に努力を重ねている時期のことを言う。

③授業概要 2（制作）

Ⅱコマ目は学生各自が先週までの続きとして作品制作の作業をすすめた。

3. 工夫した点（参観のポイント）

デザインの世界に出会うまでの自身の経験談を交えた。

本学独特の教育である、生活芸術科を踏まえ美術作家に存在する、ヒエラルキーの話をした。

4. 授業の自評

学生はデザインの幅の広さと、その面白さを実感してくれたようである。

5. 公開授業に対する感想

授業を参観して下さった先生方からは、アンケートを通して参考になるご意見を多々頂き、感謝しております。



3. 学園教育充実研究会（大会）

学園教育充実研究会（大会）は、昭和 44 年（1969 年）より、学園の教育の充実を図ることを目的として実施されている教員および職員の研修大会である。

今年度はテーマを「これからの教職協働を考える ～魅力ある学園を目指して～」と定めた。日本私立大学協会附置私学高等教育研究所「事務局職員の力量形成に関する調査」（2009）によると、教職協働を進めるために一番必要なことは、「教職員相互の理解」「目標・方針の共有や一致」が高い割合を示している。そこで、より魅力ある学園を目指し、FD 部門と SD 部門の協働により夏の大会を実施した。

前半は学園内における教職協働および地域連携等の事例発表を行い、後半は「今より 100 人受験生を増やすために何ができるか、何をすべきか？」について、「教育」「学生支援」「学生募集」「施設」「地域貢献」「行事」の 6 つの領域に分かれ、ワークショップを実施し、その成果を発表した。

■実施日程 平成 30 年 8 月 28 日（火） 9：30～16：30

■会 場 本学園（建学記念講堂）

■参加者 大学教員 37 人 短大教員 38 人 事務局職員（高校事務局を含む） 48 人 計 123 人。

【平成 30 年度 第 54 回 学園教育充実研究会（夏の大会）プログラム】

企 画		時 間	実 施 内 容
開会式		9：30～9：45	学園長挨拶・学園教育充実研究会主任挨拶
午前の部	事例発表	9：45～11：00	- 事例発表の趣旨説明（PBL の視点から） 「附属高校の生徒募集について」 附属高等学校校長 佐々木貞子 氏 「地域連携と本学の社会還元の実況について」 管財部地域連携室 阿部真澄 氏 「大学ブランディングと地域連携」 地域創成学科准教授 小松太志 氏 「高等教育における学生募集の実況」 事務局次長 関口 晋 氏
	ワーク ショップ 1	11：00～12：00	テーマ：「今より 100 人受験生を増やすために何ができるか、何をすべきか？」 - ワークの進め方・ゴールの確認についての説明 - 事前アンケートによるグループ班の確認 「教育」「学生支援」「学生募集」「施設」「地域貢献」「行事」 □ディスカッション - グループにおける問題意識の共有、改善策の検討など
午後の部	ワーク ショップ 2	13：00～14：45	- ディスカッションのためのエチケットについて確認 □ディスカッション（続き） □ポスターの作成と掲示
	セッション	14：45～15：15	- グループごとに交代でポスターの前で内容について説明する - 全員がすべてのポスターを閲覧し良いと思うもの 3 つを選ぶ （投票：事前配布されたシールをポスター脇の用紙に貼付）
閉会式		15：30～16：15	□投票結果の発表表彰（上位 3 グループ） □表彰グループによるプレゼンテーション（各 5 分） 学園長講評・学園教育充実研究会主任挨拶

開会式：関口 修学長／学園教育充実研究会委員長 磯部哲夫氏



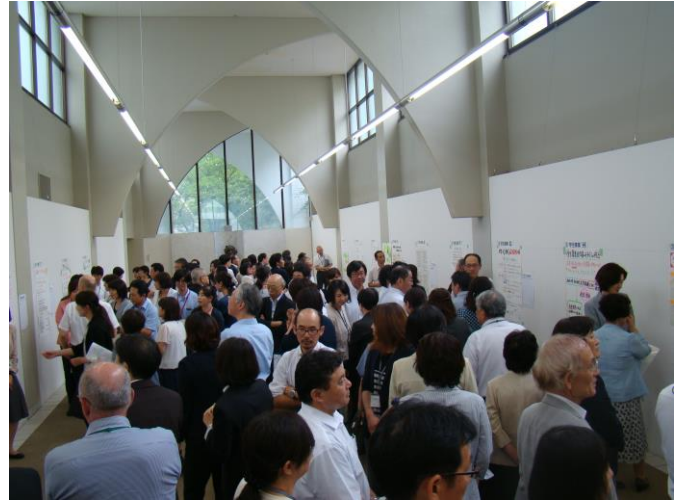
事例発表：佐々木貞子氏／阿部真澄氏／小松太志氏／関口 晋氏



ディスカッション、ポスター制作風景



ポスターセッション、投票風景



[アンケート結果] (抜粋)

- 学生に対する学業・生活両面からの支援・協働・サービス等に関する事例報告と、改善への取り組みを学べると有り難い。
- ワークショップの目的とゴールをもう一步踏み込んで明確にした方がいい。検討だけで終わるのか、実行まで見据えてのことなのかで取り組み方が変わるのではないか。
- 昨年度から実施に移された事案もあるが、未だ個人に業務が偏り過ぎている印象がある。組織的に動くことで迅速かつ組織感が出るため、内外への効果的なアピールが可能になるのではないか。
- 事務局職員の負担が大きいのではないか。金銭的・時間的な制約があるのは仕方ないが、危機管理や安全対策、資源活用など、広い視野でできるだけ自由な討論を心掛けた方がいいのではないか。
- 教育の質的な面（授業方法・内容、資格取得の為の学習状況などの他、学生との関わり方）の状況や改善、またそこからの今回のような募集に結びつける方法などについて学びたい。
- 大会で検討された事項が、改めて経営的判断などから学園の取り組みとして議論されるような仕組みが必要であると考える。
- 講義形式の研修は、各科・事務局全体で関連に開催されているが、より具体的な課題について討議するワークショップなどの研修が増えると面白いと思う。
- 学長が講評でも指摘した今回取り上げられていなかった「就職」などについて、次年度は取り上げて欲しい。我々が気づいていないことを掘り下げて知りたい。
- 他者の意見を批判しないで聴く、ということがなぜ必要なのかが浸透していない。大会終了後も同様である旨の説明が必要だ。
- 大会としては54回目であったが、次年度は学園教育充実研究会が始まって50年になるとのことなので、さらに充実した大会になることを願う。

4. 各種研修会・ワークショップ

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度には研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行っている。本年度も以下の各種研修会が実施された。

	開催日時		タイトル	主催 および 講演者	参加者数
1	H30	5/30	平成 30 年度第 1 回大学食物栄養学科セミナー 「障害児の自己肯定感を高める学級・授業づくり」	大学 家政学部食物栄養学科 小林 徹 氏	30
2		6/29	平成 30 年度「事務局新任職員研修会」	学園教育充実研究会 SD 部門 横田 英隆 氏 加瀬 洋 氏	1
3		9/26	教職員の質的向上に関する取り組み 「授業評価アンケート結果分析について 学生代表との参画における報告」	学園教育充実研究会 FD 部門 関口 晋 氏	40
4		9/27	FD 研修会 「科学研究費の書き方について」	教務委員会／学園教育充実研究会 FD 部門 共催 高橋 徹 氏	26
5		11/22	FD 研修会 「国家試験対策に向けて ～戦略の立て方～」	学園教育充実研究会 FD 部門 宇田川 孝子 氏	25
6		11/28	平成 30 年度第 2 回大学食物栄養学科セミナー 「中国の経済と食生活の変化」	大学 家政学部食物栄養学科 長谷川 貴弘 氏	19
7	H31	1/8	特別講座「自分らしく社会に貢献する学習法」	生涯学習・国際交流委員会／ 教養・キャリア教育委員会 共催 神戸 正博 氏	15
8		2/6	外部講師による学生募集関連研修会 「18 年卒募集プロセス分析結果」	入学事務・広報部 平岡 雄太郎 氏	55
9		2/13	平成 30 年度 大学図書館「学内研修会」	大学図書館 和知 剛 氏	24
10		2/13	平成 30 年度 障がい学生支援研修会 「障がい学習支援体制整備に向けた具体的 方策について」	障がい学生支援委員会 相川 章子 氏 山田 将人 氏	37
11		2/27	平成 30 年度「学生指導研修会」	学生生活委員会／教養・キャリア教育委員会／IT 管理・運営委員会 共催 水野 時子 氏 桑野 聡 氏 山口 猛 氏	40
12		2/27	平成 30 年度第 3 回大学食物栄養学科セミナー 「在宅医療は地域に貢献できるか」	大学 家政学部食物栄養学科 大西 弘太郎 氏	30
総計（延べ人数）					342

第 1 回大学食物栄養学科セミナー「障害児の自己肯定感を高める学級・授業づくり」

日本は超高齢社会に突入し、2025年には団塊の世代が75歳を迎える。その中で、最も重要なことは「健康寿命」である。健康寿命を伸ばすための食事や病気を予防する食事など、日々の食生活がますます重要になり、管理栄養士はこれから増々注目される職種であることは間違いない。そこで、第1回のセミナーでは臨床現場での管理栄養士の役割について考える。

■主催 大学 家政学部食物栄養学科

■日時 平成30年5月30日（水） 16:10~17:40

■会場 創学館2階521講義室

■講師 小林 徹 氏（短大 幼児教育学科教授）

■実施内容（抜粋）

（1）障害とは

WHOの障害の定義について

・国際障害分類（ICIDH）1980

・国際生活機能分類（ICF）2001

（2）障害児の青年期と学力

①青年期の発達課題と障害児

②傷つける学力

③癒す学力

④育む学力

⑤学力という希望

（3）まとめ（障害学生支援の専門性）

保育・教育の現場でできることとは何か。病院の現場での管理栄養士の役割は、患者の栄養状態の把握と栄養管理である。さらに厨房と病棟を繋ぐことである。病棟に出て患者の症状や食事状況を知ることは管理栄養士にしかできない業務である。日々の食事が病気の予防になり、治療期間の短縮に繋がり、医療費の軽減になることを学会発表や論文を通して管理栄養士自身が社会に訴え、多くの管理栄養士が病院で活躍できるよう働きかけていかなければならない。

（4）質疑応答



平成 30 年度 事務局新任職員研修会

本年度の新任者は新卒者であった。

例年のとおり、SD 部門の委員が講師を務め、私立学校に勤務する者として必要な基礎事項について説明を行い、社会人としての基本的な心構えについて伝えた。

■主催 学園教育充実研究会 SD 部門

■日程 平成 30 年 6 月 28 日（木） 14 時 00 分～15 時 20 分

■会場 図書館 3 階 ラーニングcommons I

■講師 横田 英隆 氏（学園教育充実研究会 SD 部門主任） 加瀬 洋 氏（同委員会委員）

■実施内容（抜粋）

（1）参加者 1 名

（2）学校職員の基本的事項に係る簡単な説明

加瀬氏から私立学校の特色、学校制度、法令について、また横田氏からは私立大学等経常費補助金の概要等について基本的な解説が行われた。



教職員等の質的向上に関する取り組み

「授業評価アンケート結果分析について学生代表との参画における報告」

平成 30 年度私立大学等改革総合支援事業における「タイプ 1：教育の質的転換」の「教職員等の質的向上に関する取り組み」において、学生による授業評価も結果を分析・検討した上で、授業の改善を図るための制度的取り組みとして、学生の代表者又は学外者が参画する FD を実施していることが問われている。そこで今回の FD 研修会は、上記のテーマで報告・研修会を実施することとした。

■主催 学園教育充実研究会 FD 部門

■日程 平成 30 年 9 月 26 日(水) 16:10~17:30

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 関口 晋 氏（事務局次長／大学 家政学部食物栄養学科教授）

■実施内容（抜粋）

授業評価アンケート結果の分析を基に、全学部・学科の学生代表者が授業改善に係る FD 活動に参画し、具体的な改善方策等について学生の意見を聴取した結果をご報告した。

- (1) 学生代表者と参画した授業評価アンケートについての報告
- (2) 学生代表者と参画したカリキュラムの内容・学修方法・学修支援又は学習成果についての報告
- (3) 学生代表者と参画した教員組織についての報告
- (4) 授業評価活動の内容分析
- (5) 質疑応答



FD 研修会「科学研究費の書き方について」

科学研究費申請書の書き方について講演を行った。申請書の書き方で誤りやすい部分を重点的に解説した。欄ごとに書くべき内容や、図の数、文章の比率、余白、項目の作り方などである。申請書を計画書のような書き方にならないように等も解説した。

- 主催 教務委員会／学園教育充実研究会 FD 部門 共催
- 日程 平成 30 年 9 月 27 日（水） 16：10～16：30
- 会場 創学館 2 階 521 講義室
- 講師 高橋 徹 氏（大学 食物栄養学科准教授）

■実施内容（抜粋）

- （1）科研費について
- （2）申請書作成のポイント
- （3）図表作成時のポイント
- （4）全体を通して
- （5）質疑応答



FD 研修会「国家試験対策に向けて ～戦略の立て方～」

本研修会は管理栄養士国家試験対策の実績がある講師に、国家試験を含めた各種試験対策を計画する教員側の戦略についてご講演をいただいた。

宇田川孝子先生の前職は日本医歯薬研修会であり、国家試験対策についての教え方のプロフェッショナルである。現在所属されている名古屋経済大学では、2016年に非常勤として管理栄養士国家試験対策を任され、2016年度合格率が34%であったところ2017年度80%まで上昇させた実績がある。その手腕のうちをご教授いただいた。当日は大学18名、短大6名、事務局1名の合計25名の出席があった。

■主催 学園教育充実研究会 FD 部門

■日程 平成30年11月22日（木） 16:10～17:40

■会場 創学館3階532講義室

■講師 宇田川 孝子 氏（名古屋経済大学人間生活科学部准教授）

■実施内容（抜粋）

- (1) 国家試験対策とは
- (2) 情報収集のツール
- (3) 模試の活用法
- (4) 試験の解き方
- (5) 質疑応答



第2回大学食物栄養学科セミナー「中国の経済と食生活の変化」

中国は、1978年の改革・開放政策開始以降、経済は急速に成長し、2010年にはGDP(国内総生産：ドル建て)で日本を抜き、世界第二位の経済体となるなど、その変化は非常に大きい。経済の変化は当然のことながら中国人民の食生活にも大きな変化をもたらしている。

今回のセミナーでは、中国の経済と食生活がこれまでどのような変遷を経てきたかを概観することを通じて、現在の中国経済社会事情について紹介する。

■主催 大学 家政学部食物栄養学科

■日程 平成30年11月28日(水) 16:10~17:10

■会場 創学館2階521講義室

■講師 長谷川 貴弘 氏(大学 家政学部食物栄養学科講師)

■実施内容(抜粋)

- (1) はじめに～チャイナウォッチャーとしての中国とは？
- (2) 中国の経済の変化
- (3) 中国の食生活の変化
- (4) 結びにかえて～中国社会事情等



特別講座「自分らしく社会に貢献する学習法」

生涯学習・国際交流委員会では、生涯学習講座に参加していただいている一般市民の方や本学在学生在が学びをいかした豊かな生活を送るための支援として、下記の外部講師を招き、「学び続ける姿勢」をテーマとして、特別講座（公開講演会）を実施した。より充実した生活のための学びについて受講者は深めていった。また、この特別講座は教養・キャリア教育委員会との共催で行った。

■主催 生涯学習・国際交流委員会／教養・キャリア教育委員会 共催

■日程 平成31年1月8日（火） 16：10～17：40

■会場 芸術館 1 階大教室

■講師 神戸 正博 氏（ヴォルテックス所属 カウンセラー・セミナー講師）

＊今年度前期「キャリアデザインⅠ」の外部講師として1回授業を担当し好評を得ている。

■実施内容（抜粋）

演題の「自分らしく社会に貢献する学習法」について、学習を続ける意味、なぜ学ぶかなどを、聴講していた方々どうしの話し合いもまじえて、聴講された方々自らが考えるなげかけと共に進められていった。

夢を持って、学んでいくことの大切さが示され、何らかの形でそれを社会に還元していけたら素晴らしい。それは、人生において、価値組（価値のある人生を送っている）にほかならない。今、生涯学習生になって学んでいる方々は、無意識かもしれないがそれがわかっている方々であり、素晴らしいことだと、興味をもって学習を続けることのすばらしさを話された。

会場では、講師の誘導で時間いっぱい、互いに話したり、投げかけに答えたり、質問をしたりしていた。



外部講師による学生募集関連研修会 「18 年卒募集プロセス分析結果」

本学の学生募集に関するデータ（資料請求者・来校出願入）を募集プロセスの相場と比較したり、本学の経年と比較したりすることにより、マーケティングの専門家の視点で分析した内容を解説する。

出願までの募集プロセスを4つに分類して考察する。志願者増加をどのルートでどのように増やし実現するのかを設定することが重要である。

分析の観点としては、「分析とは比較する」ことであることが前提となる。今回の分析では、相場と比較する「構造比較」と前年以前と比較する「経年比較」の2種を推奨する。

■主催 入学事務・広報部

■日程 平成31年2月6日（水） 10:30～11:30

■会場 創学館2階521講義室

■講師 平岡 雄太郎 氏（株式会社リクルートマーケティングパートナーズ）

■実施内容（抜粋）

- (1) 18 年卒募集プロセス分析結果 ～大学 Ver.～、
- (2) 18 年卒募集プロセス分析結果 ～短大 Ver.～
- (3) 18 年卒募集におけるメディア効果分析 ～大学&短大～
- (4) 18 年卒募集プロセス分析結果のご報告 ～まとめ&ご提言～
- (5) 質疑応答



平成 30 年度 大学図書館「学内研修会」

研修会の前半は著作権法について解説した。著作権法（昭和 45 年 5 月 6 日法律第 48 号）は知的財産権のうち、「著作権」を保護する法律である。数年おきに一度のペースで改正されているが、平成 30 年 5 月に成立し平成 31 年 1 月より施行された「平成 30 年著作権改正」では、従前は権利制限の対象となっていなかった、大学など営利を目的としない教育機関が行う対面授業および同時中継以外の、授業を用いた公の送信権と公衆送信権の行使における他者の著作物の利用について権利制限の対象とするとともに、権利者に対して補償金を支払う規定が盛り込まれている。このことについて、これからの課題と捉えて対策を講じるべき、との解説を行った。また、併せて「TPP11」の発効に伴う著作権保護期間の延長と著作権等侵害罪の非親告罪化に関する解説を行った。

後半は情報検索に必要な考え方について予備知識、基礎知識が重要であることを説明し、いくつかの検索エンジンについて解説した。

- 主催 郡山女子大学図書館
- 日程 平成 31 年 2 月 13 日（水） 10：30～12：00
- 会場 図書館 3 階ラーニングcommons I
- 講師 和知 剛 氏（郡山女子大学 大学図書館司書係長）

■実施内容（抜粋）

（1）著作権法とその平成 30 年改正について

①著作権法の概要

②平成 30 年の改正

平成 30 年 5 月 25 日に平成 30 年法律第 30 号として公布

一部の規定を除いて平成 31 年 1 月 1 日に施行

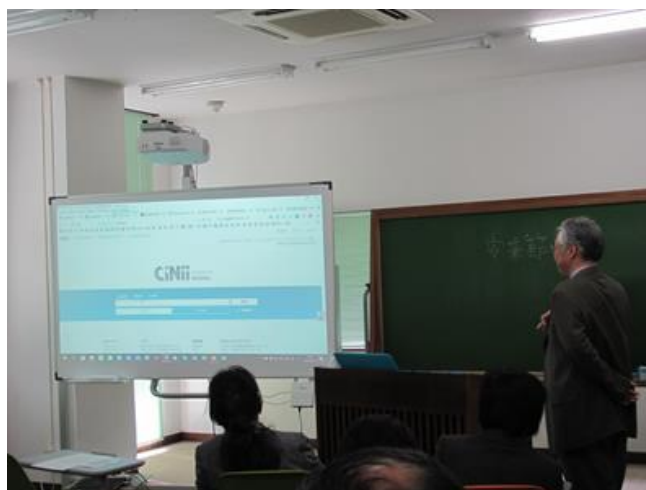
＊教育の情報化に対応した権利制限規定等の整備

③TPP11 の発効（平成 30 年 12 月 30 日）に伴う著作権法の改正

（2）文献検索の基礎

大学図書館では学生から寄せられる専門的な質問に回答すべく、様々なツールを駆使して「文献検索」を行い、学生が求める回答にできるかぎり条件の叶う資料を探すことを業務としている。今回は実際の事例を参考にいくつかのツールを使いながら、文献検索の方法について解説した。

（3）質疑応答



平成 30 年度 障がい学生支援研修会

「障がい学生支援体制整備に向けた具体的方策について」

これまで本委員会では、学内教職員向けに障害種別についての研修会を数回開催し、また毎年学科ごとに障がいを持った学生の修学状況の実態把握等に努めてきた。これからは、支援を希望する側の学生や保護者も、サポートをする側の教職員や学生も、ストレスなく継続的に取り組むための体制作りが急務であり、適切な情報共有と必要と思われる支援内容を効率よく把握・実行できるように整備していかなくてはならない。また施設などの学内環境整備も重要である。そこで、学内における横断的な連携の整備と障がいのある学生の支援内容・方法を学ぶため、二人の外部講師を招いて研修会を実施した。

■主催 障がい学生支援委員会

■日程 平成 31 年 2 月 13 日（水） 14：00～16：00

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 相川 章子 氏（聖学院大学教授）、山田 将人 氏（同大学障害学生支援室オリーブデスク職員）

■実施内容

（1）オリーブデスク設立の経緯について（相川氏）

- ・設立のための背景と経緯
- ・障がい学生支援の仕組みと主な支援
- ・学内のさまざまな意見 他

（2）聖学院大学における障害学生支援の実態 -2014 年の開設から-（山田氏）

- ・オリーブデスクの立ち上げからの動き
- ・学内における位置づけ
- ・オリーブデスクの機能と役割
- ・現在の登録者数
- ・支援内容（現状）
- ・修学支援（授業配慮）と試験配慮の例
- ・入学に向けた支援と卒業に向けた進路支援
- ・設立からの振り返り
- ・今後の取り組み 他

（3）質疑応答



平成 30 年度 「学生指導研修会」

教養・キャリア教育委員会 「キャリア教育を活かしたアドバイザー活動へのインフォメーション」

IT管理・運営委員会 「学修支援のためのシステムめばえ『ポートフォリオ機能』の理解」

学生生活委員会 「教職員（特にアドバイザー）の職務と役割についての共通理解」

本学は、開学当初よりアドバイザー制を取り入れており、アドバイザーは学生の入学から卒業まで、学習・進路・生活など様々な問題に対して支援・指導を行っています。そこで、アドバイザーが学生に対してより適切な支援・指導を行えるよう、各委員会よりそれぞれの内容について報告しました。

■主催 学生生活委員会／教養・キャリア教育委員会／IT 管理・運営委員会 共催

■日程 平成 31 年 2 月 27 日（水） 14：00 ～ 15：20

■会場 創学館 3 階 531 講義室

■講師 水野 時子 氏（学生生活委員会委員長／短期大学部健康栄養学科教授）

桑野 聡 氏（教養・キャリア教育委員会委員長／短期大学部地域創成学科教授）

山口 猛 氏（IT 管理・運営委員会委員長／短期大学部地域創成学科准教授）

■実施内容

（1）教養・キャリア教育委員会「キャリア教育を活かしたアドバイザー活動へのインフォメーション」

「キャリアデザインⅠ（1 年次科目）」の授業は、学生が自分の将来を見据えたキャリアプランを考え、社会で働き続けるための意識形成に重点をおいた内容となっている。このキャリア教育の情報は、アドバイザーが学生指導の際に活用できる可能性があり、それについての説明がなされた。

（2）IT 管理・運営委員会「学修支援のためのシステムめばえ『ポートフォリオ機能』の理解」

学生の学修支援に有効な「ポートフォリオ機能」について説明がなされた。

（3）学生生活委員会「教職員（特にアドバイザー）の職務と役割についての共通理解」

平成 25 年度（2013 年度版）から全教職員に配布している「アドバイザーの手引き」について今年度も見直しが行われ、2018 年度版から 2019 年度版への修正・加筆内容についての説明がなされた。

（4）質疑応答



第3回大学食物栄養学科セミナー「在宅医療は地域に貢献できるか？」

地域医療とは、包括医療(疾病予防、疾病治療、リハビリ、保健指導および更生医療など)、包括福祉などを、地域住民に対して社会的に適応し実践することと定義されている。地域医療の目標は、予防と治療の一体化、医療と福祉の一体化、保健指導、介護予防が柱になる、と考えられている。従来の病院完結型の医療から地域包括型のケアへと移り行く中で、在宅医療が今後の医療のひとつの型として果たすべき役割は少なくない。

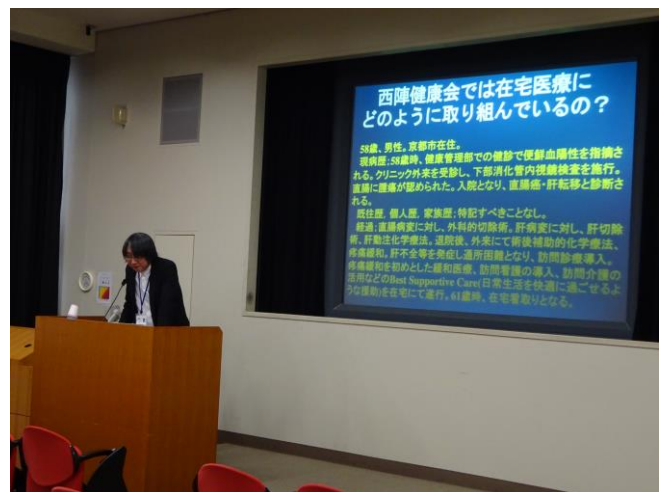
在宅医療においてベット(いわゆる入院設備)は大きな役割を果たす。入院・外来・在宅に渡り一貫したケアを推進するにはどういった条件が必要か、またどういった目標設定が望まれるのか。

今回は小生が勤務している病院・クリニック・診療所を有する医療機関における在宅医療の機能、そして在宅医療の地域包括ケアにおける位置づけ、またその役割について考察し、今後の展望について発表する。

- 主催 大学 家政学部食物栄養学科
- 日程 平成31年2月27日(水) 16:10~17:40
- 会場 創学館2階521講義室
- 講師 大西 弘太郎 氏(大学 家政学部食物栄養学科教授)

■実施内容(抜粋)

- (1) 地域とは何か?医療とは何か?
- (2) 地域医療の目標は何か?
- (3) ベット(入院設備)の位置付けとその役割。
- (4) 地域にはどんな医療が望ましいのか?
- (5) 医療を通じての地域変革が期待されている。
- (6) 質疑応答



5. 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することがSD活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

〔事務局長〕 今期該当なし

〔総務部〕

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成30年度学校基本調査の説明会	文部科学省生涯学習政策局	東北大学 片平さくらホール（仙台市）	学校基本調査に関する今年度の変更点と留意点、提出締切等についての説明会
2	第9回教育ITソリューションEXPO（教育の情報化の動向と今後の展望）	リード エグゼビジョン ジャパン(株)	東京ビッグサイト（東京都）	IR用ソフトウェアと学生IRに関する導入事例について
3	日本私立大学協会東北支部 平成30年度支部事務研修会第1回運営委員会	日本私立大学協会東北支部	仙台ガーデンパレス（仙台市）	平成29年度の事務研修会実施報告および平成30年度の事務研修会実施計画案の確認
4	平成30年度私立大学等経常費補助金説明会（職員2名参加）	日本私立学校振興・共済事業	東北福祉大学（仙台市）	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
5	大学IR実践セミナー	株式会社理経	富士ソフトアキバプラザ（東京都）	IRを取り巻く諸状況の紹介、他大学への導入事例の紹介および他大学の取組が紹介された研修会
6	公益財団法人 私立大学退職金財団 業務説明会	公益財団法人 私立大学退職金財団	アルカディア市ヶ谷（東京都）	退職金財団（テーマネージャー）についての研修会
7	日本私立大学協会東北支部 平成30年度支部研修会 第2回運営委員会	日本私立大学協会東北支部	仙台ガーデンパレス（仙台市）	平成30年度の研修会・分科会の内容についての協議と研修課題の決定
8	平成30年度第1回私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）	共済事業に関する資格関係・短期給付・年金についての研修
9	平成31年度入学者選抜 大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第1回）	独立行政法人 大学入試センター	ホテルメトロポリタン山形（山形市）	平成31年度大学入試センター試験の変更点、問題訂正等の説明及び情報提供
10	平成30年度日本私立大学協会東北支部事務研修会	日本私立大学協会東北支部	ホテルモントレ仙台（仙台市）	提示された課題に対する各大学からの状況報告と意見交換および大学協会本部からの私立大学を取り巻く情勢に関する報告
11	第1回大学職員のためのIRゼミナール	広島大学高等教育研究開発センター	広島大学東京オフィス（東京都）	経費の掛かるIR分析等に関してフリーソフト等で代替する方法を学ぶ研修会

12	大学IRコンソーシアム主催 合同シンポジウム	大学IRコン ソーシアム主 催	大正大学(東京都)	他大学のIR導入・運用状況等に関し ての情報収集および情報交換
13	公益法人 私立大学退職金財 団 業務説明会	公益法人 私 立大学退職金 財団	仙台ガーデンパレ ス(仙台市)	財団の財政方式、退職資金交付金・ 掛金の計算方法および補正掛金率 設定の仕組みについての説明
14	年末調整セミナー	グループシテ ィ株式会社	TKP 仙台西ロビ ジネスセンター (仙台市)	年末調整に関して、システム運用方 法の確認と操作手順の確認
15	AP研修会「内部質保証と中退 対策 -ユニバーサル大学におけ る中退分析とSA と共に行う中 退防止施策-」	東日本国際大 学	東日本国際大学 (いわき市)	大学教育再生加速プログラム(AP 事業)を活用した質保証事例のIR 取組状況・情報収集
16	SDP シリーズ 第3回第3期認証評価にどう 対応するか - 内部質保証の重 点項目化の意味 -	東北大学 高 度教養教育・ 学生支援機構 大学教育支援 センター	東北大学川内北キ ャンパス(仙台市)	質保証への学内データ対応・公開方 法について 他大学の取組事例を含む3つの認証 機関による説明会
17	IR シンポジウム 「学生の自律的な学習時間を どう増やすか」	東洋大学 IR 室	東洋大学白山キ ャンパス(東京都)	学生の自律的な学習時間を増やすた めにIR部門として取り組んでいる事 例等を確認
18	平成30年度学校法人の運営等 に関する協議会	文部科学省 高等教育局私 学部	品川きゅりあん (東京都)	高等教育無償化対応に関する各種法 令変更等の動向説明

[経理部]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成30年度 私立大学等経常費補助金説明 会(職員2名参加)	日本私立学校 振興・共済事業 団	東北福祉大学 (仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容およ び同補助金の前年度からの変更内容 等に関する研修会
2	平成30年度 私立短期大学経理事務等研修会	一般財団法人 私学研修福祉 会	オークラアクトシ ティホテル浜松 (浜松市)	私学行政をめぐる最近の動向と課題 および寄付金募集の現状と課題につ いて
3	高等教育段階の教育費負担軽 減新制度に関する協議会	日本私立大学 協会	アルカディア市ヶ 谷(東京都)	新制度概要「個人要件」及び「機関 要件」のポイント、申請事務手続き 等のスケジュールについての説明並 びに質疑応答。
4	消費税軽減税率制度説明会	公益社団法人 郡山法人会	郡山市労働福祉会 館	国税庁資料「よくわかる消費税軽減 税率制度」より制度導入の変更とな る事務事項、価格転換等について

[管財部]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成30年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学（仙台市）	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
2	郡山市学術・研究機関ネットワーク形成会議	郡山市政策開発部政策開発課	国立研究開発法人産業技術総合研究所・福島再生可能エネルギー研究部門（郡山市）	郡山市内の学術研究機関におけるネットワーク形成のための会議並びに産総研の視察
3	平成30年度大学等における省エネルギー対策に関する講習会	文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）	大学施設等における戦略的な省エネルギー対策に関する取組事例等の講習会
4	東北地域における産学官・地域連携ネットワーク会議	東北経済産業局産学官連携推進室	東北経済産業局（仙台合同庁舎）仙台市	東北地域における大学等の産学官・地域連携担当者、企業や自治体との連携状況等について報告およびネットワーク形成
5	省エネセミナー（職員2名参加）	福島県	ビッグパレットふくしま（郡山市）	省エネの進め方と無料省エネ診断事例について、エネルギー使用合理化専門員とのセミナーおよび事例発表
6	太陽光発電新時代セミナー（職員2名参加）	福島再生可能エネルギー推進センター	ビッグアイ（郡山市）	太陽光発電の知識向上と取組事例等について学ぶセミナー
7	第2回学術・研究機関ネットワーク形成会議	郡山市 政策開発課 学術連携係	ビッグパレットふくしま（郡山市）	郡山市内の学術研究機関におけるネットワーク形成のための会議並びにハイテクプラザの視察
8	防犯講習会 2019年防災の集い（職員4名参加）	郡山地方消防防災協会・郡山地方広域消防組合 共催	ビッグパレットふくしま（郡山市）	郡山地区の防災意識の向上を図ることを目的とした防災の専門家による講演会
9	民間助成金の獲得に向けた研修交流会	（公財）助成財団センター	日本教育会館（東京都）	国の助成金ではなく民間での様々な助成金（トヨタ財団等）獲得に向けた研修交流会

[入学事務・広報部]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	学生獲得戦略セミナー	株式会社 ライセンスアカデミー	ライセンスアカデミー本社（東京都）	『選ばれる大学への仕掛けづくり』
2	大学におけるマーケティングと広報・募集の実践講座	私大職員研修センター	アルカディア市ヶ谷（東京都）	効果的な広告・宣伝、ソーシャルメディア等の基本や実務について具体

				的な指導、現場の業務遂行に役立てるための講座
3	平成 30 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省	メルパルク東京（東京都）	大学入学者選抜その他教務関係事項についての連絡協議会
4	後半戦で勝つ学校になるために～あらためて具体的施策を考える～	株式会社エデュース	中央大学駿河台記念館（東京都）	2019 年 4 月入学生獲得に向けた実施対効果、費用対効果について
5	高大接続で変わる入試広報・成功のためのセオリー	株式会社エデュース	中央大学駿河台記念館（東京都）	変化を予測した、次年度からの新しい学生募集
6	2018 年度第 2 回 Between セミナー	株式会社進研アド	TKP 仙台南町通カンファレンスセンター（仙台市）	「大学市場は再編されるのか」これだけは押さえておきたい 2020 年問題・新しいブランディング戦略とその方法

[教務部]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成 30 年度私立大学等経常費補助金説明会（実践編）（職員 2 名参加）	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス（仙台市）	平成 30 年度私立大学等経常費補助金の内容および変更点について
2	平成 30 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省	メルパルク東京（東京都）	教務関係および入学選抜試験にかかる諸問題、高大接続に関する情報提供
3	平成 31 年度大学入試センター試験福島県連絡会	大学入試センター試験福島県連絡会議 世話大学（福島大学）	福島大学（福島市）	平成 31 年度大学入試センター試験について各試験場志願者および割振り等の説明
4	平成 31 年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第 1 回）	独立行政法人大学入試センター	ホテルメトロポリタン山形（山形市）	平成 31 年度大学入試センター試験の変更点、要領等の説明、30 年度試行調査の説明及び高大接続改革に関する情報提供
5	平成 30 年度日本私立大学協会東北支部事務研修会	日本私立大学協会東北支部	ホテルモントレ仙台（仙台市）	各大学から提案された課題に対する分科会別の各大学からの状況報告と意見交換及び協会本部からの私立大学を取り巻く情勢に関する報告
6	平成 31 年度科学研究費助成事業公募要領等の説明会	文部科学省・日本学術振興会	東京大学安田講堂（東京都）	平成 31 年度科学研究費助成事業公募内容変更点等について
7	平成 30 年度「私立短期大学教務担当者研修会」	日本私立短期大学協会	アルカディア市ヶ谷（東京都）	学校教育法・短大設置基準等と教務事務について
8	平成 31 年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当	独立行政法人大学入試セン	仙台国際センター（仙台市）	平成 31 年度大学入試センター試験の追加・変更点、要領等の説明、試

	者連絡協議会(第2回)	ター		行調査の結果及び高大接続改革に関する情報提供
9	平成30年度教職課程認定申請に関する事務担当者説明会	文部科学省	めぐろパーシモンホール（東京都）	教職課程認定申請に関する事務手続きの内容・変更点等について
10	大学設置等に関する事務担当者説明会（職員2名参加）	文科省高等教育局高等教育企画課 大学設置室	メルパルク東京（東京都）	学等の設置審査一般に関する事項について
11	平成30年度高等教育段階の教育費負担軽減新制度に関する協議会	日本私立大学協会	アルカディア市ヶ谷（東京都）	平成30年度高等教育段階の教育費負担軽減新制度に関する協議会・制度の説明・要件についての説明
12	平成31年度特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査に係る説明会	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（東京都）	特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査に係る説明
13	平成30年度東北厚生局管内養成施設等説明会（生活衛生分野・福祉分野）	東北厚生局	東北厚生局（仙台市）	平成30年度東北厚生局管内養成施設事務担当者用マニュアル等の説明、運営上の注意事項について

[学生生活部]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	学生教育研究災害傷害保険説明会	日本国際教育支援協会	東京海上日動火災保険会社仙台支社（仙台市）	平成31年度に向けた保険内容に関する説明
2	平成30年度奨学金業務研修会	日本学生支援機構	パレスへいあん（仙台市）	平成30年度における奨学金業務(適格認定)に関する研修
3	平成30年度奨学金業務研修会	日本学生支援機構	アパホテル（仙台市）	平成31年度に向けた奨学金業務に関する説明

[就職部]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成30年度東北地区私立短期大学就職指導研究会	東北地区私立短期大学就職指導研究会	秋保温泉 岩沼屋（仙台市）	総会にて予算案・当番校の確認と、講演・キャリア支援の取り組みについての討議
2	平成30年度私立短期大学就職担当者研究会	一般財団法人私学研修福祉会・日本私立短期大学協会	文化学園大学・短期大学部（東京都）	就職・進路指導のあり方についての事例紹介とグループ討議および講演

3	地域創生インターンシップ推進 シンポジウム	内閣官房	ホテルメトロポリ タン仙台（仙台市）	インターンの意義や現状の取組みについて大学関係者や地方企業に紹介し、地域創生インターンシップの全国展開を図るためのシンポジウム。
4	ふくしま就職情報交流会	福島県商工労働部雇用労政課	ビックパレットふくしま（郡山市）	企業の人材確保・売り手市場で学生が企業を理解しないで就職するミスマッチ防止をメインとした情報交換会
5	東北地区私立大学就職問題協議会設立 40 周年記念研究会	東北地区私立大学就職問題協議会	江陽グランドホテル（仙台市）	協議会設立 40 周年を記念し講演等が行われた。
6	平成 30 年度就職部課長相当者研修会	一般財団法人私学研修福祉会・日本私立大学協会	ホテルハマツ（郡山市）	私立大学協会に加盟する大学就職部課長相当者での重要課題について、班別研修および取組事例情報交換

[図書館]

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成 30 年度新入社員研修会	株式会社東邦銀行	ビックパレットふくしま（郡山市）	新社会人のためのビジネスマナーなど
2	平成 30 年度大学図書館シンポジウム	国公立大学図書館協力委員会	早稲田大学小野記念講堂（東京都）	平成 30 年著作権法改正について
3	私立大学図書館協会東地区部会総会・研究講演会	私立大学図書館協会東地区部会	共立講堂（共立女子大学）（東京都）	大学図書館の学修・学習支援サービスについて
4	福島県内大学図書館連絡協議会総会	福島県内大学図書館連絡協議会	福島県立医科大学（福島市）	著作権侵害防止の取り組みについて 他
5	第 79 回私立大学図書館協会総会・研究大会	私立大学図書館協会	龍谷大学大宮校舎（京都市）	「図書館とデジタルアーカイブ」ほか
6	第 73 回東北地区大学図書館協議会総会	東北地区大学図書館協議会	東北学院大学（仙台市）	大学図書館コレクションの構図と展望
7	第 25 回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会	福島県内大学図書館連絡協議会	福島大学（福島市）	著作権の基礎・最新の動向
8	2018 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 総会	オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）	一橋大学一橋講堂（東京都）	オープンアクセスリポジトリ推進協会の活動状況報告および次年度の活動計画等について

〔高校事務室〕

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	福島県私立中学高等学校保護者 会総会講演会	福島県私立中 学高等学校保 護者会	ホテル華の湯 (郡山市)	講演「思春期のこどもと向き合うた めに」(桜の聖母学院短期大学 学長 西内みなみ 氏)
2	第56回東北地区私学教育研修 会	福島県私立中 学高等学校協 会	ホテルハマツ (郡山市)	研究テーマ「選ばれる私学であるた めに、事務室が果たす役割」 演題1「学校法人の労務管理の留意 点」 演題2「学校事故への対応」
3	福島県私立中学高等学校保護者 会 第29回研修会	福島県私立中 学高等学校協 会	吉川屋(福島市)	研修演題「インターネットにおける トラブルや犯罪の現状と対策」(講 師 青少年育成県民会議「大人への 応援講座」根本雅明 氏)
4	平成30年度県中地区私立高等 学校保護者懇話会	学校法人石川 高等学校 (当番校)	郡山ビューホテル (郡山市)	福島県私学振興大会への取組み、県 中地区5校私立高等学校保護者会の 勉強会
5	第44回福島県私学振興大会記 念講演	福島県私立中 学高等学校保 護者会	ビッグパレットふ くしま(郡山市)	講演「教科書にない1回だけの命の 授業」(諏訪中央病院 名誉院長 鎌田 実 氏)
6	平成30年度福島県私立中学高 等学校事務部会	福島県私立中 学高等学校事 務部会	ホテルハマツ (郡山市)	財務状況報告書作成講演会「学校事 務について」(講師:富本教育研究 所長 富本道宣 氏)
7	就学支援金説明会	福島県私立中 学高等学校事 務部会 福島県総務部 私学・法人課	ホテルハマツ (郡山市)	就学支援金制度改正の説明情報交換 会

〔学園教育充実研究会 (SD 部門)〕

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	金沢大学・山形大学・大正大学 合同シンポジウム	金沢大学国際 基幹教育院高 等教育開発・ 支援部門	一橋講堂(東京都 千代田区)	大学組織変革について、他大学の取 組み紹介、グループディスカッショ ンによる意見交換。
2	2018 キャリアサポーター交 流会『ふくしまをつくろう!』	福島大学ふく しまの未来を 担う地域循環 型人材育成推 進室	ビッグパレットふ くしま(郡山市)	若年者の福島県内定着と学生の就 職支援のため、参加者自身の自己研 鑽及び企業担当者との意見交換。

[保健室] 今期該当なし

[幼稚園事務室] 今期該当なし

[家庭寮] 今期該当なし

平成 30 年度 学園教育充実研究会（大学・短大部門）

部 門	名 前	所 属
FD 部門	磯部 哲夫（委員長・FD 部門 主任）	短期大学部 音楽科
	岡部 聡子（FD 部門 副主任）	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 人間生活学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 家政科食物栄養専攻
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
	松田 理香	短期大学部 生活芸術科／地域創成学科
SD 部門	横田 英隆（SD 部門 主任）	経理部
	加瀬 洋	総務部
	高橋 一	総務部
	安齋 文明	管財部
	鈴木 美由紀	教務部
	岸本 圭生	就職部
	草野 優芽	入学事務・広報部
	村田 菜織	高校事務室
	安藤 岐恵	教務部
事務担当	安藤 岐恵	教務部